

Title	奥付
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学工学部
Publication year	2023
Jtitle	新版 窮理図解 No.36 (2023. 1)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	慶應理工の科学技術社会論：より良い社会を目指した文理共創の試み 外国語・総合教育教室 見上公一 (准教授)
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000036-0011

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「無駄な」時間とは？

見上公一

新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、大学の授業もオンラインで実施せざるを得ない状況になりました。授業の動画を作成することも多くありましたが、学生のために動画は細かく区切った方がいいといったことが言われていたのをご存知でしょうか。また、学生の中には再生する速度を上げている人がいるといった話も聞いたことがありました。教室で90分しっかりと授業が行われるようになった現在、早送りしたい！なんて思いながら授業を受けている学生もいるかもしれません。

今回の経験を通じて改めて感じたのは、科学技術が私たちの時間の感覚に与える影響は大きいということです。以前に、イ

ンターネットで同じ動画を繰り返し再生したり、見たいところだけをかいつまんで見たりしている子供の姿を目の当たりにして、「大好きなああの番組は、この曜日のこの時間まで待たないと見られないんだ」なんて思いながら心待ちにしていた幼少期の自分との違いに、多少の不安を感じたこともありました。本人たちしてみればごく当然のことかもしれませんが、異なる環境下での生活を知る人を見ると、時間の捉え方が大きく変化していることに気付かされるのです。

このような変化が必ずしも悪いことだとは言いません。むしろ時間が有効に使われるのだから良いことのはずだと主張する人がいることも想像できますし、それを頭から否定するつもりもありません。ただ、その「有効に使う」という考えは「無駄を省く」ということを前提としています。だからこそ、自分が何を「無駄」だと認識してい

るのかにいま一度目を向けてもらいたいと思うのです。もしそれが今必要ないことだとしても、より長い視点で考えた時、あるいは将来になって振り返った時、価値のあるものになっている可能性はないでしょうか。また、前述のように、「無駄な」時間を経験するからこそ、その先に待つていることの価値をより鮮明に捉えることができる可能性だってあるはずですよ。

科学技術に関する議論を追っていると、その目的として「無駄をなくす」ことや「効率化をはかる」ことが頻繁にあげられます。しかし、それは特定の価値観に基づいた主張であって、結果として私たちが生活の豊かさを奪い取るような例も少なくありません。時間を有効に使うということが、単に無駄を省くのではなく、無駄の中にも価値を見いだすことへと変わっていったならば、私たちの生活はより豊かなものになるかもしれません。

理工学 Information

KLL-ONE : 学生ビジネスコンテスト 学生ビジネスコンテスト

慶應義塾先端科学技術研究センター (KLL) では、慶應義塾大学理工学部等での教員・学生による研究成果を社会に実装、還元するために、ベンチャー企業創出、投資、技術支援などのインキュベーション支援を行っています。新しいビジネスのスタートアップに関わる諸活動を「短期集中的に支援する」ことで、理工学部・理工学研究科内で創出された教育・研究成果を「将来的にベンチャー起業のかたちで結実すること」を目指します。

KLL-ONEは、学生起業家の発掘・育成を目指してKLLが主催している学生対抗のビジネスコンテストです。毎年12月に開催している研究成果発表イベント「KEIO TECHNO-MALL (慶應科学技術展)」内で2019年度から実施しており、2022年度は6チームが出場しました。出場者にはコンテストに向けたブラッシュアップにつながるサポートを行い、コンテストではこれまで頭の中に秘めていたアイデアや現代社会が直面している課題解決につながるアイデアを大勢の来場者の前でビジネス提案しました。

編集後記

この号では、「科学技術社会論」を研究している見上公一准教授を紹介しました。幅広い読者の方にぜひ手に取っていただきたい特集になりましたがいかがでしたでしょうか。

見上准教授は2019年の4月に本学の理工学部外国語・総合教育教室に着任されました。それから1年も経たずにコロナ禍に突入しましたが、これからさらに理工学部の研究者との連携を深めることで、新たなことができそうだとワクワクされているそうです。科学・技術の分野で成果が上がるときに人文・社会科学でも成果が出る、見上准教授の目指す「共創」の場が、本学理工学部に広がっていくのが楽しみです。

(友久由梨奈)



KLL-ONE:

<https://sites.google.com/view/kllincubation>

●こちらのページでは過去のコンテストの様子も掲載しています！

新版 窮理図解



No.36 2023 January

編集 新版窮理図解編集委員会
写真 邑口京一郎
デザイン 八十島博明、石川幸彦 (GRID)
編集協力 サイテック・コミュニケーションズ
発行者 村上俊之
発行 慶應義塾大学理工学部
〒223-8522 横浜市港北区日吉3-14-1
問い合わせ先 (新版窮理図解全般)
kyurizukai@info.keio.ac.jp
問い合わせ先 (産学連携)
kll-liaison@adst.keio.ac.jp

web版

<https://www.st.keio.ac.jp/education/kyurizukai/>